

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年6月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691700019
法人名	医療法人 松風会
事業所名	松風の里 (3階)
所在地	鹿児島県志布志市志布志町安楽52番地3 電話 099-472-0911
自己評価作成日	令和4年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス対策の為、ご家族の面会は玄関にipadを設置しリモート面会を行っている。ご家族もリモート面会の方法に慣れてきて気軽に使用できるようになってきている。また、各階にipadを購入し普段から使用する事で利用者も機械に慣れてきている。ヘッドフォンで音楽を聞き、好きな動画を見て楽しんでおり、その様子をご家族に伝えている。

毎月発行する松風の里便りや運営推進会議の議事録でGHの様子やヒヤリハット報告を行い、出来る限り情報発信を行っている。

敷地内に同法人の医院を併設している。医療連携を図るためGH看護師が毎週利用者全員の健康状態をチェックしている。体調不良や緊急時はすぐに医院に連絡を入れ早期受診の体制が整っている。職員に看護師や准看護師の免許保有者が多いため医療面での対応が充実している。

介護職員処遇改善加算と介護職員等特定処遇改善加算を算定し給与面での安定と、希望休には制限を設けずプライベートも大切にする事で職員が働きやすい環境を整え職員の定着を図っている。

今年度は、年に3回外部講師を依頼し、自施設で全員参加の職員研修を計画している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各階の理念は申し送りの際に毎日唱和し実践につなげている。全体の理念は玄関に掲示してあり理念を念頭において業務に入っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が運営推進会議のメンバーの為地域の情報が得られている。町内会にも入っており回覧板などからも情報が得られている。現在はコロナ過で地域の行事が中止になっているが、開催された時は可能な限り地域行事に参加できるように努めている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議のメンバーの方へホームの様子や出来事を文書で報告している。現在はコロナ禍にあり話し合う機会がないが理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーの方にはホームでの事例にヒヤリハットを文書で報告し。意見や感想をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>介護保険係の方が運営推進会議のメンバーなので分からない事はその都度尋ねている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年2回カンファレンス時に勉強会を行っている。3か月に1回身体拘束適正化委員会を開き運営会議やカンファレンス時に職員に報告し身体拘束に関する意識を高めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年2回カンファレンス時に勉強会を行い自分を振り返る機会を持っている。また職員同士がお互いに注意しあえるように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社協の日常生活支援事業を利用している利用者の方がおり毎月社協の職員がホームに来られるため分からない事はその都度尋ねている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に家族へ契約書の説明を行い急変時の対応・終末期に関する意思確認の説明を本人同席の上で説明をしている。本人家族が理解納得したうえで署名捺印を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族からの意見や要望があった時は内容を職員全員で話し合っている。コロナ禍のため運営推進会議は書面で報告している。返信用のハガキを同封し議事録の感想や意見を記入していただいている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>カンファレンスで出た意見要望を運営会議で報告・検討を行いその結果を次回のカンファレンス時に報告している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>スタッフ間は何でも意見が言い合える環境作りが出来ている。カンファレンス等でもお互いの意見を出し合っている。研修参加についてもその都度進めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修については案内があった際に参加を促し参加した際はカンファレンス時に報告を行っている。カンファレンス時の勉強会については毎月各担当で資料作成し発表をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修参加の際には他施設の方との交流や情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の生活状況を知るために事前訪問を行い生活環境の把握や今まで利用した事業所などの情報を元に利用者・家族の要望や不安な事をお聞きして施設入所時に安心して過ごせるよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族から意向や不安・要望などを聞き、話しやすい雰囲気を作り情報・意見交換を行い信頼関係が築けるよう心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族や入居前の担当ケアマネや介護スタッフから情報を得て利用者にとって一番良いサービスは何か初期ケアの参考にしている。転倒の危険のある人にはセンサー設置や居室の物の配置に注意している。状況の変化があれば必要なサービス内容の見直しを行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者一人一人の出来る事やその時の気持ちを考えて、洗濯物たたみやお盆拭きの手伝いをして頂いている。おかずの味見をしてもらい最終的な味の調整をお願いする事もある。常にありがとうの気持ちを伝えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を毎月お便りで知らせている。家族関係が継続出来るよう面会時や電話で本人の様子を伝え要望など情報交換を行いながら出来る事を協力していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時はこれまで使用してきた家具などを持ってきて頂き本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないように工夫している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく会話できるように茶話会等で話の合う方とそうでない方の間に職員が入り相性も見ながら良い関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設に移られた方は施設と退所後の情報交換をしている。指導退所された方には通夜や告別式に参列している。家族との関係を大切にし、必要に応じて相談や支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で本人の要望を聞きその人らしく生活できるよう支援している。日々の変化に気付くようにし職員間で意見を出し合い家族からも意見を頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問で家族から今までの生活環境や喜ばれること、出来る事など情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人利用者に合った過ごし方が出来るように支援している。本人の意思を尊重しお手伝いなどをお願いしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が日々より良く過ごして頂くには何が必要か職員間で意見を出し実行するようにしている。家族の要望も伺いプランにも反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランの項目を参考にして各利用者の記録を行っている。月1回のカンファレンス時に意見交換を行い情報を共有出来るようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の要望・問題が生じた時はスタッフ間で話し合いを持ち利用者の要望に添えるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>年2回の消防訓練を行い地域の方にも協力をいただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回の定期受診時に日常の様子を報告している。外来看護師とも連絡を密にして相談もしている。他科受診は家族の協力ももらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>異常や変化に気付いた時はホーム内看護師に報告している。受診が必要であれば併設医院の看護師に報告相談している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院する際はサマリーを用いて病院スタッフへ情報提供を行っている。コロナ禍にあり面会が出来ないため病院スタッフへの状態を伺い連絡・情報交換をしている。退院時期などの連絡調整など密に行う事で不安なくホームに帰ってこられるように支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に本人や家族に重症化した場合の対応に関する指針の説明を行い納得して頂いたうえで書類にサインをして頂いている。体調に変化が見られた時はその都度家族や主治医へ報告相談している。重症化した場合主治医より家族に説明をしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時は職員を呼び応急手当の対応が出来るよう勉強会を行っている。AEDや吸引機など必要物品の点検を行い緊急時慌てないように確認している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年2回行っている。1回は消防署職員立ち合いで推進会議のメンバーにも参加してもらい反省会や意見交換している。現在コロナ禍にあり職員のみで訓練を行っており、訓練を反省会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人にあったケアの声掛けが出来るようにし、職員は常に考え接している。入浴や排泄時はカーテンをしめ、他者から見えないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で本人の思いや希望を聞き出し、自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、本人の意思を確認しながら無理のない支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪に関しては入居時家族に職員のカットか美容室の出張サービスを利用するか尋ねている。行事の時など好みの服を選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや味見を楽しみにされている方もいる。献立は好みの食事、季節の食材を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分量を把握し食事の少ない方はおやつ等で捕食している。水分摂取の少ない方はジュースやお茶ゼリーなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分出来る方・できない人一人一人に応じて出来る所まで自分でしていただき、出来ない所は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導、声掛けを行い出来るだけ自分で出来るように見守りを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでもらい、食事で繊維の多い食材を取り入れたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を基本とし入浴前は体調を確認し本人に声かけを行っている。入浴を見合わせる際は清拭や更衣で対応し清潔を保てるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホームで適度な運動をしていただき日光浴も行っている。居室は照明を調整し良い睡眠が取れるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に必ずスタッフ2名にて確認を行っている。症状の変化については看護師と連携し早めの気づきに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来る事の手伝いをその都度確認しながらお願いしている。季節ごとの行事にも参加していただき好みの料理なども楽しませている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍で現在外出は控えている。施設内や屋上を利用しての行事を計画し、散歩や日光浴をして気分転換をして頂いている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理はスタッフが行っている。必要に応じてその都度利用者に確認しスタッフが代わりに買い物をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人から希望があった時はスタッフ見守りを行い電話をしてもらっている。2か月に1回のお便りで日ごろの様子をお知らせしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>換気や清掃を行い動線を確保する事で安全で気持ちよく過ごして頂けるよう心がけている。リビングには季節の物を飾り音楽やテレビなど楽しまれゆっくり過ごして頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少しでも心地よく過ごして頂けるよう居室で過ごされる時は声掛けや空気の入れ替えなど行い、他の方とは譲り合って頂く		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に伺いながら、本人の歩行の状態を考え安全で使いやすい家具の配置を行い、必要な物は手の届く所や使い慣れた物を置くなどの工夫をしている。家族写真や手紙などを飾り、常に家族との繋がりを感じられるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・居室ともに移乗・移動が安全に出来るように動線を確保している。自分の居室やトイレが分かりやすいように大きく表示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない